

1. 事務局の参考コメントに対する修正・削除等

番号と評価事項 (※計50項目 番号は中期計画及び年度計画の番号)		R5年度(2023年度)評価								御意見	事務局回答(案)
		大学 自己 評価	6つの視点の評価(案)※委員意見を反映								
			顕著	独自	新規	着実	注目	課題	該当 なし		
6	英語を含む外国語教育の改善等	B				○		⊖	【中本委員】※追加意見 「課題」から「着実」へ変更してもいいのではないか。理由は、英語英米文学科を対象としたTOEFL550点に関する項目のみの未達であり、当該項目の重要性が中期計画の当初より変容し、学生のニーズも変わっていること、今年度はTOEICの受験者数、550点以上到達者数に大きな改善が見られたことを評価したい。	TOEFLに関する指標については、6年間を通じて未達であるために「課題」としている。ただし、御指摘のとおり、学生のニーズの変化が生じていることや、TOEIC受験者数、TOEIC550点以上を達成した学生数に改善がみられていることから、「課題」ではなく、「着実」の評価に変更し、委員会にお諮りする。	
13	教育活動の実施体制の整備	A				○					事務局から、以下の文言を追加したい。 さらに、総合管理学部において令和6年度から専攻制(「公共」・「ビジネス」・「情報」)導入に向けた準備を進める中で、アメリカのアップル社が主催する学生向けアプリ開発コンテストに2人が入賞したことは評価できる。
19	地域課題の解決に貢献する研究の推進	A		○		○	○			【中本委員】 「注目」を追加したい。理由は、地域の社会課題解決に、研究者と学生が参画して着実に実績を上げていることが各メディアに取り上げられていると想定されるとともに、質疑応答時に堤学長から他大学との比較でも突出している旨の説明があったため。	御指摘のとおり、緑の流域治水に関する研究をはじめとして、地域の課題解決に資する研究を実施しており、第1回評価委員会において、取組が評価され、日経グローバルの大学地域貢献度ランキング(学生・住民分野)で、518大学中10位となっている等、外部からも高く評価されているとの説明がなされている。そのため、「注目」を追加して、委員会にお諮りする。
26	他大学・研究機関等と連携した研究活動の推進	S	○			○	○				事務局から、以下の文言を追加したい。 また、令和4年度に、熊本大学等と連携した大学間連携事業が文科省補助事業の「地域活性化人材育成事業(SPARC)」に採択され、継続してグローバルDX人材育成に取り組んでいることも評価できる。
45	情報公開、情報発信	A				○			⊖	【猪俣委員長】 計画4、にも関係するが、新聞などで防災・減災などの点で県立大学の名前を多く見るようになった。積極的広報活動というより、教育研究活動の活性化の表れとも感じるが、県内地域での活動などに関して、以前より積極的にメディアなどへの情報提供を行ってきた結果なら、この計画45に関しては、「着実」の対象にしてもいいのではないかと考える。	情報公開、情報発信について、外部委託によるHPの特集記事の充実、YouTubeやSNS等の活用により、発信件数は387件(前年度315件)となり、増加に努めている。 また、法令等に基づく情報の公表も適切に行っているとともに、御指摘のとおり、積極的にメディアなどへの情報提供を行い、新聞等で取り上げられていることから、「着実」の評価に変更し、委員会にお諮りする。